

目 次	
1. FORTRAN 77の一部障害のお知らせ	1
2. カット紙ラインプリンタ (CLP) のレベルアップについて	2
3. CLPへの図形出力について	6
4. ファイル転送コマンドKERMITの公開について	8
5. MANUALコマンドによる「利用の手引センターコマンド編」 出力方法の機能追加について	10
6. プログラム相談時間の変更について	11
7. TSS初級講習会の開催について	12
8. VP講習会の開催について	13
9. UTS利用講習会の開催について	14

1. FORTRAN77の一部障害のお知らせ

FORTRANに、一部障害があったことが判明しました。障害の内容、障害の発生条件、障害のあった期間等は、以下のとおりです。
当障害は、1990年3月26日(月)に修正されています。

記

[現象]

実行結果異常となることがある。VPにおいては、ベクトル化されていない場合に発生する事がある。

[条件]

以下の条件をすべて満足したとき。

- ① コンパイラオプション OPT (2) または OPT (3) が指定されている、かつ
- ② 組込み関数 MAX または MIN が引用されている、かつ

- ③ ②の組み関数の実引数の型が4倍精度実数型である、かつ
- ④ ②の組み関数の実引数の第1引数に変数である、かつ
- ⑤ ②の組み関数の実引数の中に、配列要素の引用が1つ以上存在する、かつ
- ⑥ ④の変数が、組み関数の引数に続く実行文で引用される、かつ
- ⑦ 式の評価の結果、⑥の実行文で引用される変数が、最初の演算で使用されている。

[プログラム例1]

```

.
.
QL = MAX1 (QQ, T(2) . . . )
.
.

```

```

IF (QQ . LT . 1.0Q0)
.
.

```

[プログラム例2]

```

.
.
QL = MAX1 (QQ, T(2) . . . )
.
.

```

```

XL = QQ
.
.

```

[障害のあった期間]

1985年9月30日 より 1990年3月26日(月)まで。

(ライブラリ室 内線2508)

2. カット紙ラインプリンタ (CLP) のレベルアップについて

4月23日(月)から、カット紙ラインプリンタ装置(以下、CLP: Cutsheet Line Printerという)のレベルアップを行ないます。

従来CLPには出力できなかったTeXやEGRET/DRAWなどの図形出力が可能になります。また、A4版に加えて、B4版の用紙も利用できます。

設置場所は2階オープン室の磁気テープ装置の左側です。利用者によるオープン利用となりますので、CLP横のコンソールから出力要求を行なってください。連続紙と異なって、仕訳ミスや用紙の散乱など、利用者間のトラブルが発生しやすいので、出力要求後は必ずCLPの側に付いて出力終了を確認し、結果を持ち帰ってください。ジョブとジョブの区切りにはカラーのA4版メールシール紙が挿入されています。なお、出力負担金はNLPに準じますが、両面印刷の場合は2頁とみなします。

以下に機能概要、使用例について説明します。

1. 装置仕様

- ・印刷方式 レーザ書き込みによる乾式電子写真方式
- ・印刷速度 50 ページ/分 (A4 サイズ片面印刷時)
両面刷時は40 ページ/分
- ・解像度 240 ドット/インチ
- ・印字禁止領域 用紙の各端より0.2 インチ以内

2. 機能

a) 用紙サイズ

A4, B4

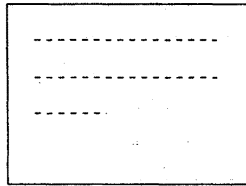
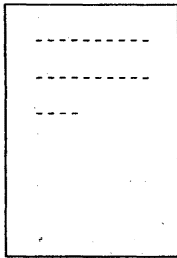
b) 印刷面指定

両面, 片面の選択が可能

c) 印刷モード

ポートレートモード (縦打ち)

ランドスケープモード (横打ち)



d) 縮小印刷

・80%縮小印刷

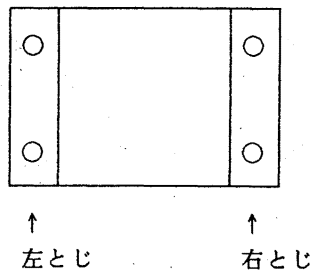
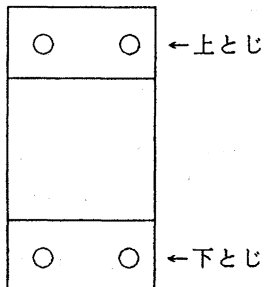
作成された印刷データ (書式オーバーレイ, 図形, イメージデータを含む) をそのまま縦横とも80%縮小して印刷する。

・LP縮小印刷

通常のNLP出力を対象として作成された印刷データ (11×15インチ) をCLPのA4 (横打ち) の大きさに縮小して出力する。ただし, 出力結果の縦横の縮小比率は5:6となる。

e) とじしろ

印刷用紙に対してとじしろ方向を指定する。指定できる方向は上下左右。



f) 行間隔

1/6インチ, 1/8インチ, 1/12インチ

g) 文字サイズ

7ポイント, 9ポイント, 12ポイント及び各サイズの倍角, 平体, 長体, 半角, 1/4角文字

h) 図形, イメージ印刷

可能。(従来のB4版NLPと同様)

3. 行間隔と文字間隔の選択

本センターのNLPやCLPに結果を出力する際, 横1インチあたりの文字数をCPI (Character Per Inch), 縦1インチあたりの行数をLPI (Line Per Inch)で表わす。それぞれ, 10CPI, 12CPI, 15CPI, 及び6LPI, 8LPI, 12LPIを選択できる。また, 文字種もゴシック型, エリート型がある。CLPの場合, 省略値はそれぞれAS15 (15CPI) LSA8 (8LPI)となっている。利用者が指定する場合は文字数, 及び文字種をUCSパラメタで, 行数をFCBパラメタで行なう。現在指定できるUCS名, FCB名は下表の通りである。指定の方法は使用例を参照されたい。

1) UCS (Universal Character Set)

CPI	UCS 名			
	ゴシック型			エリート型
	カナ文字	英小文字	ASCII文字	英小文字
10	KA10	LC10	AS10	EL10
12	KA12	LC12	AS12	EL12
15	KA15	LC15	<u>AS15</u>	EL15

2) FCB (Form Control Buffer)

		6LPI	8LPI	12LPI
A4版 FCB 名	LAND	LSA6 (47LINE) LZA6 (58 ")	<u>LSA8</u> (62LINE) LZA8 (79 ")	LSAC (94LINE) LZAC (118 ")
	PORT	PSA6 (67 ") PZA6 (84 ")	PSA8 (90 ") PZA8 (113 ")	PSAC (134 ") PZAC (170 ")
B4版 FCB 名	LAND	LSB6 (59LINE) LZB6 (72 ")	<u>LSB8</u> (77LINE) LZB8 (97 ")	LSBC (116LINE) LZBC (145 ")
	PORT	PSB6 (83 ") PZB6 (104 ")	PSB8 (111 ") PZB8 (139 ")	PSBC (167 ") PZBC (208 ")

表の見方：1文字目 L：LAND ランドスケープモードで出力する。
 P：PORT ポートレートモードで出力する。
 2 " S：縮小なし Z：ZOOM（80%縮小）
 3 " A：A4版用紙 B：B4版用紙
 4 " 6：6LPI 8：8LPI C：12LPI
 (nnLINE) 1ページあたりの行数

4. %LISTコマンドによる使用法

1) 機能

%LISTはデータセットの内容をNLPまたはCLPに出力するコマンドである。
 ここではCLPの使用法の説明を行なう。

2) コマンド形式

コマンド	オペランド
%LIST	{データセット名 ?} [CLP] [PORT LAND] [BOTH] [SIZE(A4 B4)] [LP] [ZOOM] [UCS(UCS名)] [FCB(FCB名)] [BIND({LEFT RIGHT UPPER LOWER})] [COPIES(複写回数)] [PARAM('パラメタ')]

3) オペランドの説明

データセット名：出力の対象となるデータセット名を指定する。

ここに、?を指定すると%LISTコマンドのオペランド一覧を出力する。
 必須オペランド。

CLP : CLPを使用するときに必ず指定する。

PORT|LAND : 印刷方向のモードを指定する。PORT（ポートレート）、LAND
 （ランドスケープ）。省略値はLAND。

BOTH : 両面印刷を行なう。指定がない場合は片面印刷。

SIZE(A4|B4) : 用紙のサイズを指定する。省略値はA4。

LP : LP縮小印刷を行なう。

ZOOM : 80%縮小して印刷する。

UCS : UCS名を指定する。

FCB : FCB名を指定する。

BIND : 用紙のとじしろ位置を指定する。LEFT（左）、RIGHT（右）、
 UPPER（上）、LOW（下）。

COPIES : 複写回数を指定する。

PARAM : LISTコマンドに与えるパラメタ（NONUMなど）を指定する。

4) 使用例

a) A. FORT77 のデータセットをCLPへ出力する。

```
%LIST A.FORT77 CLP
```

b) A. DATA のデータセットをCLPへ、縦方向、両面印刷を指定してB4版用紙に出力する。

```
%LIST A.DATA CLP PORT BOTH SIZE(B4)
```

c) A. FORT77 のデータセットをCLPへ、1インチあたり12文字の大きさのエリート型字体、及び1インチあたり6行の文字間隔でA4版用紙に出力する。

```
%LIST A.FORT77 CLP UCS(EL12) FCB(LSA6)
```

5. バッチによる使用法

バッチジョブでCLPを利用する場合は、実行終了後、CLP横のコンソールから出力要求を行なう。また、用紙や文字種を指定したい場合は下記のようにOUTPUTコマンド等で結果を一旦データセットへ出力し、それを%LISTコマンドで出力する。

```
OUTPUT   ジョブ名  PRINT(KEKKA)      …… 結果は KEKKA.OUTLIST に入る
%LIST    KEKKA.OUTLIST CLP  BOTH  LP
```

(システム管理掛 内線2518)

3. CLPへの図形出力について

CLPのレベルアップに伴い、CLPへの図形出力方法が変更になりました。コマンドおよび制御文の例は以下のとおりです。なお、他の図形ツールについては、出力可能になり次第お知らせします。

PKS

指定可能な図形印刷装置出力オプション (PKSコマンドプロシジャでは SHEET パラメタ、PKSおよびPKSV Pカタログプロシジャでは PKSOPT パラメタで指定) は A4LS, A4PR, B4LS, B4PR の4種類で、CLPへの出力では、これら以外の値を指定しないで下さい。

(TSSによる使用法)

CLPへ、A4サイズ、ランドスケープで、両面に出力する。

READY

```
PKS データセット名 GOUT(CLP) SHEET(A4LS) SIDE(BOTH)
```

(バッチによる使用法)

CLPへ、A4サイズ、ランドスケープで出力する。

```
// EXEC PKS,STEP=CLG,PKSOPT='PKS(A4LS,NOBUF)'
```

```
//FORT.SYSIN DD DSN=データセット名,DISP=SHR
```

```
//GO.FT##F001 DD SYSOUT=U
```

PKSV Pを使用しCLPへ、B4サイズ、ポートレートで、両面に出力する。

```
// EXEC PKSV P,STEP=CLG,PKSOPT='PKS(B4PR,NOBUF)'  
//FORT.SYSIN DD DSN=データセット名,DISP=SHR  
//GO.FT##F001 DD SYSOUT=U,PRTFORM=(SIDE=BOTH)
```

TEX

(TSSによる使用法)

CLPへ、A4サイズで両面に出力する。

READY

TEX F(データセット名) DE(CLP) A4 BOTHSIDE

LATEXコマンドも同じ使用法です。なお、RTEXおよびRLATEXコマンドもデータセット名の指定が必要ないことを除いて同じ使用法です。

SAS

GOPTIONS ステートメントの GFORMS パラメタに指定可能な値は PR20,PR21,PR22,PR23 の4種類で、CLPへの出力では、これら以外の値を指定しないで下さい。

A4サイズ、ランドスケープで出力する場合の GOPTIONS ステートメント。

GOPTIONS DEVICE=GSP6683 NODISPLAY GSFMODE=REPLACE GFORMS=PR21

(TSSによる使用法)

CLPへ、両面に出力する。

READY

SAS DA(データセット名) GOUT(CLP) SIDE(BOTH)

RSASコマンドもデータセット名の指定が必要ないことを除いて同じ使用法です。

(バッチによる使用法)

CLPへ、両面に出力する。

```
// EXEC SAS,SY=U,SIDE=BOTH
```

```
//SAS.SYSIN DD DSN=データセット名,DISP=SHR
```

COMPACT

指定可能な印刷タイプは A4T1,A4T2,A4T3,A4T4,B4T1,B4T2,B4T3,B4T4,B4T5 の9種類で、CLPへの出力では、これら以外の値を指定しないで下さい。

(TSSによる使用法)

印刷タイプ A4T1 で、両面に出力する。

READY

COMPACT データセット名 T(A4T1) SIDE(BOTH)

(バッチによる使用法)

印刷タイプ A4T1 で、両面に出力する。

```
// EXEC COMPACT,TYPE=A4T1,SIDE=BOTH
//UTYIN DD DSN=データセット名,DISP=SHR
```

バッチによる使用では、TYPE, SIDE, SYSOUT 以外のパラメタ (COMPACT のオプション) の指定は、PARM='オプション' ではなく、OPTION='オプション' として下さい。また、CLP への出力に限らず、UNIT パラメタは指定の必要がなくなりました。

EGRET/DRAW

指定可能な用紙タイプは、TSS による使用では、A4 縦型、A4 横型、B4 縦型、B4 横型の 4 種類、バッチによる使用では PR20, PR21, PR22, PR23 の 4 種類で、CLP への出力では、これら以外の値を指定しないで下さい。

(TSS による使用法)

メニュー (印刷情報指定画面) で、図形の入っているデータセット名、メンバ名、装置タイプ 1 (センタ装置 (ベクトル機構あり)) を指定し、用紙タイプ (2, 3, 4, 5 のいずれか) を選択し、次ページのメニューで出力クラス U を指定して下さい。

(バッチによる使用法)

CLP へ、両面に出力する。

```
// EXEC EGRD,SY=U,SIDE=BOTH
//GRAPH DD DSN=データセット名,DISP=SHR
//SYSIN DD *
MODE IN=GRAPH,KST=KST,DCTNRY=DCT,FEED
PRTGRF OUT=CLP,OUTDEV=PR21
MEMBER メンバ名,COORD=(10,10),FACTOR=1
/*
```

(ライブラリ室 内線 2508)

4. ファイル転送コマンドKERMITの公開について

4月10日(火)から、MSPでKERMITプロトコルを搭載したファイル転送コマンドKERMITを公開します。

KERMITによるファイル転送を行うには次のプログラムをパソコン側に用意する必要があります。これらは、センター・オープンステーションにて、利用者自身でコピーしてください。

- ・KERMIT (端末エミュレータ)
- ・NKF (シフトJISコードとJISコードのコード変換プログラム)

以下に、日本語を含むテキストファイルの転送の例を示します。

1) ファイル転送の準備

まず、パソコン側でモデムの電源を入れ、通信ソフトを起動する。センターで用意しているソフトでは、MSVP98と入力する。

A>MSVP98

.....

KERMIT-MS>

が表示されるので、以下の手順によりMSPにログオンする。

KERMIT-MS>SET SPEED 9600

KERMIT-MS>SET PARITY EVEN

KERMIT-MS>SET LOCAL-ECHO ON

KERMIT-MS>C

.....

AT

OK

ATDP 0926311906

電話をかける。

Connect 9600/REL

.....

CRを入力。

enter class M

Mを入力。

class M start

.....

ブレーク信号 (^]B) を送信する。

CTRLキーを押しながら "]" を押し、続けて "B" を押す。

JECT005 SYSTEM READY

LOGON TSS A79999A/ハ*スワ-ド

:

:

READY

KERMIT

:

KERMIT-MSP>

2) パソコンからMSPへの転送 (アップロード)

(1)KERMIT-MSP>RECEIVE 受信ファイル名

(2)^] Cでパソコン側へ切り換える。

(3)KERMIT-MS>SEND 送信ファイル名

(4)転送が完了するとその旨のメッセージが出力される。

(5)再びTSS側へ切り換える時は、KERMIT-MS>CONNECT と入力する。

3) MSPからパソコンへの転送 (ダウンロード)

(1)KERMIT-MSP>SEND 送信ファイル名

(2)^] Cでパソコン側へ切り換える。

(3)KERMIT-MS>RECEIVE

4) KERMITの終了は共に“QUIT”で終了する。

5) 注意事項

1. 漢字コードを含むテキストの転送は次のように扱われる。

MSP上の漢字を含むテキスト(JEFコード)は83年版JISコードに変換されて端末側に格納される。一太郎などに取り込む必要のある場合は端末側でシフトJISコードに変換しなければならない。また、逆にシフトJISコードからなる漢字テキストはあらかじめ83年版JISコードに変換してMSPに転送する必要がある。こうすれば、JEFコードに変換されてMSPのデータセットに格納される。

2. パソコン端末側でのコード変換(NKF.EXEを用いる場合)

A> NKF.EXE IN.TXT > OUT.TXT JISコードに変換する。
(シフトJISコード) (JISコード)

A> NKF.EXE -S IN.TXT > OUT.TXTシフトJISコードに変換する。
(JISコード) (シフトJISコード)

3. MSPで作成されるデータセットのデフォルトの属性は可変長で1レコード255バイト、ブロックサイズ23440バイトになっている。MSPのデータセットのレコードサイズを考慮してパソコン側のテキスト(1行251バイト以下)を作成しておかなければならない。

4. バイナリー転送はできない。

(ネットワーク掛 内線2542)

5. MANUALコマンドによる「利用の手引センターコマンド編」出力方法の機能追加について

CLPのB4サイズ出力機能追加に伴い、従来のMANUALコマンドに「利用の手引センターコマンド編」をB4サイズで出力する機能を追加しました。

入力形式

MANUAL COMMAND [CB5B | CA4B | CB5 | CA4 | CB4P | LB5 | LA4 | LB4P | NLP | CLP]
[OPR (OPR機番)]
[PGINI (開始ページ)]
[PGFIN (終了ページ)]
[COPIES (複写部数)]
[CNT]
[IND]

オペランドの説明

CB5B | CA4B | ... | CLP : 印刷装置, 用紙サイズ, 片面・両面刷, 1頁・2頁刷を選択する。
プリンタ B5両面 A4両面 B5片面 A4片面 B4-2頁組 NLP-2頁組
CLP : × ◎(CA4B) × ○(CA4) ○(CB4P) ×
OPR : × × ◎(LB5) ○(LA4) ○(LB4P) ×
NLP : × × × × × ◎(NLP)

括弧内の記号は、印刷命令で該当する印刷方式を選択するとき利用するオペランドの名前で

ある。◎ は標準の印刷，○ は印刷可能であることを示す。

OPR : OPR機番を指定。

PGINI, PGFIN : 印刷範囲を頁で指定。省略値は PGINI(1), PGFIN(999)。

COPIES : 複写部数を指定。省略値は 1。

CNT : 目次を作成し，印刷する。

IND : 索引を作成し，印刷する。

注) 本文を印刷せずに索引と目次だけを印刷したければ，開始頁に999を指定すればよい。
(PGINI(999))

使用例

READY

MANUAL COMMAND : N L P へ出力

READY

MANUAL COMMAND CLP : C L P (A4両面) へ出力

READY

MANUAL COMMAND CB4P : C L P (B4-2頁組) へ出力

READY

MANUAL COMMAND OPR(XXXX) : B5片面でプリンタ名 XXXX の O P R へ出力

READY

MANUAL COMMAND PGI(17) PGF(27) : 17 頁から 27 頁を N L P へ出力

READY

MANUAL COMMAND PGI(999) CNT : 目次だけを N L P へ出力

(ライブラリ室 内線 2508)

6. プログラム相談時間の変更について

平成2年度から，下記のとおり相談時間に変更になりましたので，お知らせします。

記

相談曜日 月曜日 ～ 金曜日

相談時間 13時30分 ～ 17時30分

但し，水曜日，および金曜日については10時30分 ～ 12時30分

の間も相談を行っています。

なお、プログラム相談室の電話番号は、

代表 092-641-1101 内線2522 です。

7. TSS初級講習会の開催について

標記講習会を下記の要領で開催いたします。受講希望者は、(共同利用掛 内線2505)にお申し込みください。

記

- ・日 時 5月8日(火)・9日(水) 10時 ~ 16時
- ・受付時間 9時30分 ~ 9時50分
- ・対 象 TSS初心者(これからTSSを利用しようとする人)
- ・募集人員 40名
- ・内 容 TSSを利用したプログラム、テキストの編集法及びプログラムの実行など
会話型処理の基本
- ・会 場 大型計算機センター・多目的講習室(3階)
- ・講 師 システム管理掛 川寄 正子, 共同利用掛 柳池 定
- ・テキスト 利用の手引 TSS編(1990年3月)使用
- ・時間割

10:00 12:00 13:30 16:00

1日目	TSSの概要 プログラムの編集	昼 休 み	実 習
-----	--------------------	-------------	--------

10:00 12:00 13:30 16:00

2日目	プログラムの実行 FIBジョブの依頼法	昼 休 み	実 習
-----	------------------------	-------------	--------

- ・申し込み期間 4月23日(月)~27日(金)
(なお、募集定員に達し次第締め切ります。)

9. UTS 利用講習会の開催について

標記講習会を下記の要領で開催いたします。受講希望者は、（共同利用掛 内線 2505）にお申し込みください。

記

- ・日 時 5月24日(木) 10時～12時
- ・受付時間 9時30分 ～ 9時50分
- ・対 象 U N I X 利用経験者
- ・募集人員 40名
- ・内 容 U T S (富士通社製の U N I X オペレーティングシステム) のもとで使用可能な各種ソフトウェアの利用法の説明及び実演
- ・会 場 大型計算機センター・多目的講習室(3階)
- ・講 師 研究開発部 竹生 政資, システム管理掛 河津 秀利
- ・テキスト センターで用意
- ・申し込み期間 5月14日(月) ～ 18日(金)
(なお、募集定員に達し次第締め切ります。)